

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 教育学 ）	氏名	中村 孝
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目			
社会的情報処理モデルから見たいじめ加害者の認知プロセス			
論文審査担当者			
主 査	教授	栗原 慎二	
審査委員	教授	井上 弥	
審査委員	教授	児玉 真樹子	
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、小学生を対象に、加害予防・加害者支援という視点に立ち、社会的情報処理モデル(以下 SIP[Social Information Processing] モデルとする)の観点から、いじめ加害をしないために必要な能力(以下 APB[Abilities for Preventing Bullying]とする)やその影響関係を検討したものである。</p> <p>本論文は、以下の7章で構成されている。</p> <p>第1章では、いじめの実態と特徴、いじめ加害者を理解するための理論、いじめの定義について、文献をもとに整理・検討している。その結果、いじめ加害経験を誰もがしてしまう可能性があることやいじめへの対処が難しいことから、いじめ加害をする理由や思考、認知のプロセス、メカニズムを理解することの必要性を指摘している。また、いじめ加害児童の認知のプロセスを理解するために、SIPモデルが有用であり、いじめも直接いじめと間接いじめに分けて理解していくことの必要性を指摘している。</p> <p>第2章では、SIPモデルの観点から、これまでのいじめや攻撃性に関する研究を整理し、直接いじめ加害者と間接いじめ加害者を理解することを目的としている。その結果、直接いじめ加害者は、SIPモデルのStep1からStep4に課題があることを示唆している。一方間接いじめ加害者は、Step3とStep5に課題があることを示唆している。また、これまでの研究ではSIPモデルにおけるStep間の影響やプロセスについて、十分な検討がされてこなかったことを指摘している。</p> <p>第3章では、国内外のいじめ予防プログラムに関する研究を概観し、支援対象となる立場(加害者・被害者・傍観者)と、成長が期待されるAPBと、Step間の影響の3つの観点からプログラムを整理・検討している。その結果、調査時点で、53編の論文と書籍で国内のプログラムが提示されており、そのうちの12編が統計的な検証を行っていることを示している。またさらに、12編の中では、主な支援対象として加害者に着目しており、SIPモデルの各StepのAPBとその影響関係の改善を意図していることから、栗原(2013)のプログラムがいじめ加害抑制に対する有効性を期待できると推察している。</p> <p>第4章では、SIPモデルの各Stepに関するAPBを捉える尺度を検討した。その結果、他者意識尺度、視点取得尺度、友人親和動機尺度、社会的スキル尺度、他者指向性尺度の</p>			

5 つ全ての信頼性と独立性が確認され、有用性が示された。

第 5 章では、いじめ加害をする児童とそうでない児童の間で APB 間の影響関係に違いがあるかを検討することを目的として、第 4 章で選定した APB を捉えるための 5 つの尺度を測定し、いじめ加害児童とそうでない児童で影響関係に差があるか検討した。その結果、いじめ加害をする児童は、そうでない児童と比べて、APB 間の影響関係が弱いことが示唆された。また、他者指向性から間接いじめ加害を抑制する影響がいじめ加害をする児童では確認されず、いじめ加害児童の SIP モデルから見た APB 間の影響関係の課題を示唆している。

第 6 章では、前章で示唆された課題が、プログラムの実施によって改善されるか検討することを目的として、第 3 章で有用性が示唆された栗原(2013)のプログラムを実施し、第 4 章で選定した APB を捉えるための 5 つの尺度を測定し、プログラムの前後で影響関係に変化があるか検討した。その結果、プログラムの実施前には確認できなかった影響関係が認められた。具体的には、APB の視点取得から友人親和動機・他者指向性・間接いじめ加害への影響、そして友人親和動機から向社会的スキル・他者指向性への影響、さらに向社会的スキルから他者指向性への影響が認められた。これらのことから、プログラムの実施により、いじめ加害をする児童の APB 間の影響関係が強まり、いじめ加害を抑制することが示唆された。

第 7 章では、本研究で得られた示唆として、いじめ加害者の APB 間の影響関係とその可塑性について示している。また、今後の課題として、サンプル数を増やすことにより、いじめ加害児童についてより詳細な理解を行うことと、プログラムの効果検証に質的なデータを取り入れて、効果の要因について検討すること、さらにプログラム実施時間を長くすることで効果が高まるか検証することなどを指摘している。

本論文は、以下の点において高く評価することができる。

1. これまで検討されてこなかった SIP モデルの観点から見た際にいじめ加害抑制につながる能力を APB として捉えるとともに、APB 間の影響関係について検討したこと。特に、直接いじめ加害を抑制する Step4 の APB に対して、いじめ加害児童は Step3 の APB の影響が弱いこと、および間接いじめ加害を抑制する Step5 の APB に対して、いじめ加害児童は Step2 の APB の影響が弱いことが認められたこと。
2. いじめ予防プログラムの効果検証において、SIP モデルの観点から見た APB 間の影響関係に着目して、その影響関係の強化を確認したこと。特に、上記で挙げられた Step3 から Step4 と、Step2 から Step5 への 2 つの影響関係に改善が見られたこと。
3. いじめに予防的に取り組む支援の方法として、SIP モデルの観点から見た APB の影響関係に着目することの重要性を示唆したこと。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

平成 31 年 2 月 9 日